

1 F

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） ※取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んで いきたい 項目	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I	理念に基づく運営	1～5 (自己No.1～24・外部No.1～14)		自己評価24項目・外部評価14項目	2	
I 理念に基づく運営	1	理念の共有 (自己No.1～3・外部No.1～2)		自己評価3項目・外部評価2項目	0	
	1 理念の共有	1	○地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念に「住み慣れた地域」、運営方針に「地域に溶け込み、寄り添う」を盛り込んでいる。家訓「あるがままに 楽しく ゆったり」として昨年の夏祭りでは、入所者も地域の方とゲーム・カラオケ・盆踊りなどを一緒に楽しんだ。	0	
		2	○理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人代表が年度ごと事業計画、事業方針を明確にし、スタッフに配布している。法人の運営や基本的な考え方などについてカンファレンス等に於いて都度話しており、周知している。事業所では「介護」「ケア」という言葉を使わず、寄り添い見守ることを日ごろから心がけ、実践している。	0	
		3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には年に1回の家族面談、年に2回の家族会を通して、地域の方には地域運営推進会議の場において「さわやかテラス」の理念について、理解を頂いている。	0	
	2	地域との支え合い (自己No.4～6・外部No.3)		自己評価3項目・外部評価1項目	2	
	2 地域との支え合い	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域に溶け込み「より添う」ためにまわりの清掃を運営方針にあげている。散歩や買い物へ行く時に挨拶を行い、時には近所の方から声を掛けてくださる時もある。また「さわやかテラス」を一般の方にも開放しており、時々近所の子もたちが遊びに来ている。	1	運営方針にも地域の清掃をかかげているが、まだ実行できていない。一階勝手口にトング・ゴミ袋を置き、いつでもできるよう準備しており入居者と一緒に散歩しながら清掃活動をしていきたい。
5		○地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域運営推進会議にて地域の行事等の情報を頂き、地域の敬老会や地区の運動会、コンサート、もちつき大会等 積極的に参加している。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営	2 支地 え域 合 の い	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着について取り組めるものがないか案を出し合ったが、実行するまでに行かず計画を立てている段階である。併設事業所として小規模多機能型居宅介護施設「さわやか憩いの家」があり、協力しながら地域の高齢者へのアプローチを行って行きたい。	1	今年より憩いの家の相談室で、地域の高齢者・障害者の相談窓口を設け、法律や介護の相談会開催を計画。6月10日に第一回開催予定。
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己No.7~11・外部No.4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	0	
		7 外部 評価 4	○評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表は法人の運営、認知症ケアについての自身の考え方をスタッフに明確に示しながら管理者、スタッフと協働してより良い「さわやかテラス」となるように取り組んでおり、自己評価、外部評価の意義を理解している。また、評価結果についても各スタッフ目を通し、評価結果に基づき改善策を検討しより良いサービスを行うようにしている。	0	
		8 外部 評価 5	○運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催しており、家族代表の他、市役所の方、自治会長、民生委員、包括支援センターの方等幅広い方々に参加して頂いている。その中で意見交換を行い、「さわやかテラス」の向上を図っている。外部評価の結果も運営推進会議で報告している。	0	
		9 外部 評価 6	○市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会があれば、法人代表、管理者が市町村担当者の所に伺い、情報交換を行っている。	0	
		10 外部 評価 7	○権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人代表が高齢者障害者安心サポートネットの理事を務めている他、スタッフの一人が成年後見人のボランティアを行っている。管理者は家族に説明することが出来なければいけないという考え方のもと、必要と思われる方に個別に説明をしている。家族会でも説明を行い、欠席された方については資料を郵送している。	0	
		11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で入居者の立場に立ってサービスを行うよう話している。その中でも高齢者虐待防止関連法については、常に念頭に入れサービスを行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己No.12~18・外部No.8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	0	
I 理念に基づく運営	4 理念を実践するための体制	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に入居者宅に伺い、本人、家族に十分説明を行っている。また入居後も家族から質問があれば、スタッフはその都度説明を行うようにしている。	0	
		13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフは日頃から入居者と密な関係を保ち、意見等言いやすい環境をつくっている。日常生活の中で、訴えや意見が聞かれれば、紙面で他スタッフに知らせ、スタッフで話し合いを持って解決するよう心がけている。	0	
		14 外部評価8	○家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ほとんどの家族が月に一度は来訪されている。その際、個別記録、ケアプラン、出納帳、に目を通して頂き、確認表に押印して頂いている。遠方で来訪頻度が少ない家族には、毎月電話で報告するようにしている。また、毎月「さわやかテラス」の新聞を作成、郵送しスタッフの紹介、異動のお知らせ等もおこなっている。金銭管理も含め、家族への報告は密に行っている。	0	
		15 外部評価9	○運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族とケアについて話し合いを十分に行っている。管理者、統括責任者、法人代表等、相談に合わせ窓口を設けており、相談内容によって相談先を選ばれている。また、意見を頂いた時は、「要望シート」に記録として残し「さわやかテラス」の運営に反映させている。家族会にて意見相談窓口が市町村、県にあることもお知らせしている。	0	
		16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回カンファレンスを行い、管理者、スタッフで話し合いをし、意見交換の場を設けている。また、スタッフ全員が法人代表、管理者の携帯電話の番号を知っており、いつでも話す機会を作れるようにしている。	0	
		17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態に合わせて、管理者、スタッフと話し合い、スタッフの勤務体制や勤務時間等、臨機応変な対応を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基 づく運 営	4 理 念 を 実 践 す	18	○ 職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はスタッフのメンタルケアに常日傾心がけている、人事異動は馴染みの関係が継続できるように、必要最小限に努めている。	0	
		5	人材の育成と支援(自己No.19~24・外部No.11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	0	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19	○ 人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっては、性別、年齢で制限をしておらず、実際にスタッフの年齢層は20代~50代まで幅広い。採用にあたっては「グループホームのケアに従事したい」という意欲を重視しており、「さわやかテラス」で働くことがそのスタッフの自己実現と一致している人を採用している。スタッフは地域活動、自己学習を自由に行っており、「さわやかテラス」として資格取得を積極的に支援している。	0	
		20	○ 人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表が権利擁護の団体の会員であり、日頃からスタッフに対して話がされている。研修の年間計画にも認知症ケアの専門性、グループホームにおけるスタッフの資質を盛り込み、入居者本位のケアについて学習している。カンファレンスでも入居者の立場に立って考える姿勢が徹底されている。	0	
		21	○ 職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は法人内4事業所合同で、年間計画を立て、計画的に行っている。経験年数に応じた研修や、リーダークラスの研修も行っており、スタッフは段階を踏んで知識、技術を深めていけるようになっている。外部研修の機会も確保している。	0	
		22	○ 同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修等に積極的に参加し、他同業者との意見交換を行ったり、相互訪問等も行ったりしている。法人代表が開設前に多数の施設を訪問見学しており、その中で関係ができたホームとの交流も行われている。	0	
		23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間等、機会があれば各スタッフと話す機会を設けている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの努力や実績、能力に合わせてリーダーや管理者補佐、管理者の職務についてもらうようにしている。	0	
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2 (自己No.25～34・外部No.15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	0	
II 安心と 信頼に 向け た 関 係 作 り と 支 援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己No.25～28・外部No.15)			自己評価4項目・外部評価1項目	0	
	1	25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が自宅に伺い、関係づくりに努めている。利用後も困っていること、不安なこと、求めていることを話して頂けるようにスタッフも含め、より良い関係づくりに努めている。	0	
		26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が自宅に伺い、関係づくりに努めている。利用後も困っていること、不安なこと、求めていることを話して頂けるように密に連絡を取り合い、より良い関係づくりに努めている。	0	
		27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「さわやかテラス」の見学は自由に来て頂いている。相談を受けた時に、本人が今必要としているサービスは何か見極め、他サービスの紹介も行っている。	0	
		28	○馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に体験入居の仕組みはとってないが、入居前の話し合いを繰り返す中で、入居者、家族、スタッフの互いの理解を深め、馴染んでいただいてから入居していただくようにしている。起床時間や一日の過ごし方等、入居前の環境、生活のリズムを把握し、入居後はできる限り、前の環境に近づけるようにして無理なく「さわやかテラス」の生活に馴染んでいただくようにしている。	0	
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価No.29～34・外部評価No.16)				自己評価6項目・外部評価1項目	0	
	係り 継続 への 支 援	29	○本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫、調理といった家事については入居者の方が経験豊かであることから、味付けのコツや昔ながらの風習等入居者に教えるを頂いている。また、できない事を強いるより、得意なことを教えて頂きながら一緒に行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された際、声を掛けたり、談話したりしながらコミュニケーションをとり、入居者の事を共に考えるようにしている。また、家族会を設け「さわやかテラス」との関わりを密に出来るよう話し合いを行っている。毎月ケアプランの説明を家族に行い、その時に要望があればプランに反映させている。	0	
		31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が「さわやかテラス」に来訪された時は、自宅にいるような感じで過ごして頂けるような環境づくりを行っている。また、入居者の状態等を密に連絡する事で、家族とのより良い関係が築けるよう支援している。	0	
		32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の中で入居以前より習い事として民謡をされており、その民謡の先生にボランティアとして「さわやかテラス」に来ていただいて、他の入居者も含め、民謡を楽しまれている。また、ある入居者は入居以前にいつも通っていた喫茶店に今も時々行かされている。	0	
		33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の一日の行動は自由であるが、リビングにて過ごせる機会をもって他の入居者と談話したり、テレビを見て過ごせたりできるように配慮している。また、入居者同士で話し合ったりする事が必要であれば支援し、見守っている。	0	
		34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も家族と「さわやかテラス」との関係を継続していけるようつながりを保っている。今現在、亡くなった入居者の家族の方が併設の小規模多機能型居宅介護施設「さわやか憩いの家」にボランティアとして来てくださっている。	0	
Ⅲ	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己No.35～51・外部No.17～22)			自己評価17項目・外部評価6項目	2	
	1	一人ひとりの把握(自己No.35～37・外部No.17)		自己評価3項目・外部評価1項目	0	
	1 の 一 把 人 握 ひ と り	35 外 部 評 価 17	○思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「何事も利用者と一緒にする。」「許可、同意を得る。」「本人、家族の希望を重視する。」とスタッフの心得に明記しており、常に入居者の希望を把握し思いに沿った暮らしの実現に努めている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のような環境であったか等、生活歴を本人や家族の方より伺い、十分に把握し、趣味など、入居してから「さわやかテラス」で生活していく中で活かせるように支援している。	0	
		37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとり生活のリズムが違うので、スタッフが一人ひとりのリズムを把握し、日々の生活がスムーズに行くように努めている。また、毎日一時間ごとに入居者の様子など記録している。毎月振り返り、総合的に把握している。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己No.38~40・外部No.18~19)		自己評価3項目・外部評価2項目	1	
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38 外部評価18	○チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族来訪時にケアプラン、個別記録を見ていただき意見をお聞きしている。スタッフを3チームにわけ、6名の入居者を担当し、毎月チームで話し合いを行った上で全体のカンファレンスにてさらに意見交換を行っている。プランの内容は入居者、家族の思いを盛り込んでおり、スタッフの気づきも入っている。	1	認知症の為のケアマネジメントセンター方式を一部使用して入居者の思いや願いが叶うようなケアプランを立てているつもりだが、まだスタッフの思いが優先しケアプランに入ってしまう入居者本人が一番何を望まれているのかを理解しきれていないところがある。
		39 外部評価19	○現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月チームで話し合いをした上でカンファレンスにかけて全スタッフで話し合いをする流れになっており、話し合いの結果を踏まえ計画の書き直しも毎月行っている。また、入居者の状況に合わせて家族の方と話し合い、その状況に合わせてケアプランを作成している。	0	
		40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一時間ごとに入居者の様子など言葉や言動に注意しながらどのような一日を送ったのか他のスタッフ、家族がわかるように記入している。ケアプラン等は後で見直ししやすいように青ペンで記入するなど工夫している。記録については毎月振り返り、ケアの見直し等検討している。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己No.41・外部No.20)		自己評価1項目・外部評価1項目	0	
	3 柔軟な支援	41 外部評価20	○事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院を含めた外出支援を入居者の心身状況や生活のリズム、家族の都合に合わせて臨機応変に行っている。ある入居者は習い事の希望あり、スタッフの付き添いにてダンス教室楽しまれている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己No.42~51・外部No.21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	1	
		42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	「さわやかテラス」内では、保育園の子ども達が時々訪問して、踊りや合奏を入居者に披露して楽しませてくださる。また、月二回民謡の先生に来ていただき、みんなで民謡を楽しまれたり、定例のお茶の先生によるお茶会も楽しまれたりしている。地域の行事や習い事があるときは情報を頂いたり、市の広報誌をみて、希望される入居者には参加したりしていただいている。	0	
		43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者家族の希望があれば、管理者が他のサービスの紹介等を行っている。	0	
		44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	二ヶ月に一回、地域推進運営会議に参加して頂き、情報の交換を行っている。	0	
		45 外部 評価 21	○かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「さわやかテラス」として協力医療機関を確保しているが、受診、入院の医療機関は、入居者、家族の希望に沿っており、各入居者のかかりつけ医を協力医療機関医師に伝えている。月二回往診に来てくださる他、急な特変があっても24時間連絡がとれる体制をとっている。	0	
		46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関のドクターが認知症に関して理解が深く、24時間連絡がとれるようになっている。密に入居者の状況報告を行っており、状態が悪ければその都度連絡するようにしている。月二回の往診に来ていただき、入居者より相談があれば家族と連絡をとり、話し合う。その結果、他の専門医を紹介して頂き、受診するよう支援している。	0	
		47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	在宅医療支援診療所と提携し24時間医療・看護ができる体制をとっている。24時間訪問看護ステーションと提携している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した場合は、毎日スタッフがお見舞いに行くようにしており、入居者の希望や、話を傾聴している。また、その日の入居者の様子や状態を病院関係者から伺い、家族への連絡も行っている。医師と「さわやかテラス」、家族との連絡も密に行い、治療方針を相談し、今後のケアを検討している。「さわやかテラス」のかかりつけ医とも密に連絡をとるようにしている。	0	
		49 外部評価 22	○重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「さわやかテラス」ではみとりをする旨、明確に方針を示している。重度化や終末期について、家族やかかりつけ医、さわやかテラス管理者とで繰り返し話し合うようにしている。みとりを行う時は、勤務体制を特別に調整し、一名のスタッフが居室に付き添うようにしている。既にもとりの実績もある。	1	年1回の家族面談にて入居者の最期の時（場所）を「さわやかテラス」「自宅」「病院」でどこを望むか早い段階で入居者と御家族で話をしていただくようお願いしている。高齢者の場合日ごろ元気な方が急変することも考え、状態に変化見られるときは臨時でご家族と面談する機会をもうけ、その結果をスタッフに報告している。
		50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と「さわやかテラス」、家族、訪問看護との連携でケアを行い、み取りを行った。これをもとに感じたことをスタッフにアンケートを取り、今後みとりを行うにあたって更により良いケアができるように努めている。	0	
		51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	「さわやかテラス」では別の居所への移り変わりはほとんどないが、家族の思い、入居者の思いを十分に話し合い、本人にできるだけ負担をかけないように努めている。	0	
IV	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己No.52～89・外部No.23～33)			自己評価38項目・外部評価11項目	1	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価30項目・外部評価9項目	1	
		52 外部評価 23	(1) 一人ひとり尊重(自己No.52～54・外部No.23～24)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
			○プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務、言葉遣い、態度について具体的に示した「スタッフの心得」をスタッフルームに掲示し、全スタッフにも渡し、指導している。	0	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に入居者の言動、行動に目を配り、本当に言おうとしている事に視線を落とし、耳を傾けるようにしている。また、専門用語や新しい言葉は使わず、わかりやすい言葉で話すようにしている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	○日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気分やリズム、ペースを大切にしている。望まれる方には散歩、買い物も自由にして頂いており、安全を確保しながらも入居者が望まれる過ごし方を尊重している。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己No.55~60・外部No.25~26)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の個性に合わせ、ブローチや髪飾りをつけたりすることを支援し、パーマをかけたい希望があれば、近所の美容室に予約し、スタッフが付き添っている。個々で馴染みの美容室に家族と一緒にいける入居者の方もおられる。	0	
		56 外部評価 25	○食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に参加して頂きやすいように敢えて台所とリビングをカウンターで区切る造りにはせず、続きの構造にしている。無理にお願いすることはせず、自主性に委ねているが、入居者の気分に合わせて手伝ってくださっている。一名のスタッフが検食も兼ねて同じテーブルについて必要な介助を行えるようにしている。食卓には花を飾り、入居者の方に食べたい物を伺ったり、旬の物を取り入れたり工夫している。	0	
		57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む、好物物について、医師からの制限がない限りは、日常的に楽しめるようにしている。制限がある場合も絶対にダメとは言わず、入居者、家族と話し合い、できるだけ楽しんで頂き、ストレスをためないようにしている。夜ワインを飲むとよく眠れるとのことで寝る前にワインを飲まれる方もおられる。	0	
		58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者のADL、量、回数、時間に合わせ排泄パターンを把握している。また、入居者の気持ちを尊重し、さりげない言葉かけをするなど支援している。	0	
		59 外部評価 26	○入浴を楽しむことのできる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に入浴日、入浴時間は決めておらず、入居者が好まれる時間に入浴して頂いている。入浴実施は記録に残し、希望に合わせながらも清潔の保持に気を配っている。入浴を嫌がられる方についてはスタッフで話し合いをして言葉かけを統一し、入居者が気分よく入って頂けるようにしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特に就寝時間は決めておらず、休みたい時間に休まれている。「眠れない」訴えがある方に対しては温かい飲み物を提供するなど工夫している。「眠れない」訴えが続く場合は、日中入浴や足浴をして頂くなど、夜安眠できるように支援している。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己No.61~66・外部No.27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		61 外部 評価 27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、生け花等、入居者の力を発揮して頂けそうな場面では「教えてください」と言葉かけし、助言を頂いている。また、入居前からの趣味の継続にも努めており、ダンス教室に通われている方もおられる。月一回外食に行かれたり、その日の気分や天候に合わせ、ドライブ等に行かれたりと楽しまれている。	0	
		62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じてお金を所持されている。お一人で管理できない入居者については預かり金として「さわやかテラス」で管理し、必要に応じて預かり金よりいつでも使えるようにしている。また、銀行や郵便局にいったお金をおろされる方もおられ、都度スタッフが付き添っている。個々でお金の所持の方法が違うのでスタッフが把握し、支援している。	0	
		63 外部 評価 28	○日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中は玄関、勝手口等開放し、自由に外へ出られる環境をつくっている。家族に理解を得た上で、行動の制限は行わず、近くのスーパーへの買い物や散歩は一人でして頂いている方もいらっしゃる。ほぼ毎日散歩へ行かれる方もおられるが、止めることはせずスタッフは一緒に出たり、後方より見守りをするなど入居者の気持ちに合わせより添っている。	0	
		64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一回予め計画を立て、季節の行事の他、天候やその日の気分に合わせて外食やドライブに行っている。家族への呼びかけはしているものの一緒に行かれる方は少ない。	0	
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけてください」と言われた時は、自由に掛けて頂いている。本人が掛けられない場合はスタッフが掛ける等支援している。手紙のやり取りも自由にして頂いており、年賀状や暑中見舞い等書かれ近くのポストに出しに行かれている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族、知人、友人等、いつでも気軽に来て頂けるようにしている。来訪の際は、居室やリビングで談話されたりと思いいいに過されている。家族によっては合わせたくない人もいる為、事前に伺っている。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己No.67~74・外部No.29~30)			自己評価8項目・外部評価2項目	1	
		67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはいつも意識して接するようにしている。例えば、玄関の鍵をかけたり、動けないように椅子に座ってもらったりなど。また、言葉が荒くなると自然に命令口調になり、言葉による抑制につながることもいつも念頭において接している。	0		
		68	○鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は戸締りするが、日中は正面玄関、勝手口、各階段に続く二階の出入り口ともに開放している。鍵を掛けないこと、行動制限しないことについては入居にあたって家族に説明し理解頂いている。スタッフがわからないまま利用者が外出されたこともあるが、日頃より近所の方や警察への協力依頼もしており、鍵を掛けないケアを継続して行っている。	0		
		69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は一時間ごとに所在の確認、様子の把握を行っている。夜、就寝されてからも随時見守りを行っている。また、入居者の状態に合わせ臨機応変に対応している。	0		
		70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の使用については、入居者の状態に合わせ、見守り、一部介助等行っている。	0		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒は危険予測を考えながら一人一人の状態に合わせて見守りし、事故が起きた時の対応を心がける。誤薬しないためにはスタッフの十分な見守りが必要であり、服薬前は必ず名前等確認するようにしている。行方不明については、一連の動作をスタッフのチームワークを持って行動している。火災は火の元を離れる時は消し、使用しない時は元栓を閉めるようにしている。また、大きな事故を未然に防ぐために「ひやりハット」を書くようにしており、全スタッフが共有できるようにしている。	0				

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「さわやかテラス」内で急変時、事故発生時にいつでも見られるように対応を壁に貼っている。消防署の救急方法受講や社内での研修で応急手当や初期対応の訓練を行っている。	0	
		73 外部評価 30	○災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防署の協力も得ながら避難訓練を行っている。訓練に際しては入居者の心身状況を踏まえ、誘導の順番、手順も細かく記載した計画書を作成し、実施状況、避難終了までの所要時間も含めて記録をつけ、毎回評価、反省をしている。夜間想定訓練も行っている。併設の小規模多機能型「さわやか憩いの家」とも連携し、地域への協力依頼も行っている。また、地域の火災訓練にも参加した。	1	今後は避難訓練を地域の方に声を掛け、消防署の協力を得て、一緒に取り組んで行けるように努力したい。
		74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人での散歩、近所への買い物も含め、入居者本意の個別ケアに務め、日頃より家族とケアについて話し合いを十分に行っている。また、入居前や家族面談の際にも十分話し合っている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己No.75~81・外部No.31)	自己評価7項目・外部評価1項目	0	
		75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定行い、体調の変化や異変の早期発見に努めている。また、朝や出勤時に申し送りを行い、情報を共有している。緊急を有する異変の場合は管理者へ連絡し、かかりつけ医の指示を仰いでいる。	0	
		76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方日や、毎日の薬をセットする際は、薬の内容を確認している。また、薬の変更、追加処方がある場合は連絡ノートに記入し、スタッフ全員が把握できるようにし、症状の変化など気にかけている。服薬の際はきちんと飲み込まれるまで見守りを行っている。	0	
		77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のために食物繊維の多いものを提供し、水分補給に気をつけている。また、個別に、牛乳やバナナ、ヨーグルトの提供などしている方もいる。慢性的な便秘の場合は腹部マッサージを行ったり、かかりつけ医に相談したりし下剤を服用してもらっている。また、排便の有無がわかるように必要な入居者に対しては日誌に記入するようにしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後は一人ひとり口腔状態や力に応じ支援している。(朝食、昼食後についてはできる方のみ)月に二回、訪問歯科に来て頂き口腔衛生や、口腔ケアの指導をして頂いている。	0	
		79 外部評価31	○ 栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は夜勤者が作成している。法人内に栄養士資格を有するスタッフがいるため定期的に献立提供した食事の記録をチェックしてもらい、助言を得ている。食事制限が必要な疾病を持たれている入居者についてはかかりつけ医の指導を受けながら個別に対応している。水分補給にも気をつけている。	0	
		80	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は必ず手洗いうがいをするようにしている。出入り口にはアルコールを置き、外からウイルスを持ち込まないように工夫している。また、感染症にならないように毎食の食事摂取量の確認や毎朝ラジオ体操をして健康づくりを行っている。インフルエンザは入居者、スタッフ共に予防接種を行っている。	0	
		81	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のために台所にはアルコールを置き、調理前後にはアルコール消毒するようにしている。シンクは一日一回クレンザーで磨き、調理器具や布巾は夜、キッチンハイターで消毒している。食材については毎日買い物へ行き、新鮮な物を提供している。日持ちする調味料等は購入した日にちを書き、管理している。	0	
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)		自己評価8項目・外部評価2項目	0	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己No.82~86・外部No.32~33)		自己評価5項目・外部評価2項目	0	
	2 生活の環境づくり	82	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはベンチを置いたり、花を植えたりし、誰でもゆっくりとできるように工夫している。玄関に日常の写真・花などたくさん飾って楽しめるように工夫している。	0	
		83 外部評価32	○ 居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって居心地よく過して頂くためにスタッフはゆっくり行動、走ったり慌しくしたりしないように心掛けている。採光や風通しも良く、季節や行事に合わせ、飾りつけをかえたり食卓に花を生けたり季節感を出している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「さわやかテラス」内には入居者一人ひとりの居室があり、独りで過ごされたい時は居室で自由にされている。また、食事の時以外は自由にソファやテーブル席に座って頂けるようにしている。日中は鍵を閉めず、自由に外に出られるよう開放し、スタッフは見守りを行っている。	0	
		85	○居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「さわやかテラス」の備え付けはクローゼットのみに入居に関して馴染みの物をお持ちして頂くようにしている。居室に入る限りは特に制限はしておらず、鏡台や仏壇、タンス、ソファ等、持ち込まれている。家具の配置も入居者の希望や生活パターンに合わせている。	0	
		86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際必ず換気をしている。「あつい」か「さむい」かを入居者に伺い、温度の調節はこまめに行っている。気になる臭いについては消臭剤を置いたり、臭いの元になるものは常に洗い、換気をしたりし心掛けている。	0	
		(2)	本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己No.87~89)	自己評価3項目	0	
		87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「さわやかテラス」内には安全に歩行できるように手すりをつけている。車椅子トイレ、洗面所も車椅子でも整容できるように工夫されている。エレベーターもあり、誰でも階上、階下できるようになっている。また、居室には必要であれば一人ひとりに合わせ、介護ベッドを設置している。	0	
		88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の行動はできるだけ見守り、つまづいている部分にさりげなく気配りしている。できないことを強いるより得意なことを一緒に行っている。また、声かけをしながら苦にならないように努めている。	0	
	89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前や駐車場にベンチを置き、自由に玄関前の花や梅、駐車場の桜を見て、外気浴や散歩を楽しまれている。「さわやかテラス」の裏には畑があり、入居者と共に収穫を楽しんでいる。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
V サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	1		
	91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	1		
	92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1		
	93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1		
	94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1		
	95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1		
	96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1		
	97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	1		
	98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	2		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	1	
		100	○職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	1	
		101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1	
		102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族と ②家族等の2/3くらいと ③家族等の1/3くらいと ④ほとんどできていない	1	
V サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

※ Vサービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

※ 番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

※ 項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。